

特記事項

1. 特色ある学修システム

(1) 背景と概要

今日の社会生活において、コンピュータはシステムにかかわる一部の人間だけでなく、一般ユーザにおいても避けて通れないツールとなっている。またその変革のスピードは時代を追って速さを増している。

昭和 62 (1987) 年、本学の前身である大阪短期大学の開学当初より経営情報学科を有する本学でも、コンピュータを、学生生活の中で日常的に触れるべきツールと位置づけ、その時代のネットワーク環境に対応した学修システム・環境の整備を行ってきた (表 I-1 参照)。在学中、これらの学修システムや環境に身を置くことで、卒業後、企業をはじめとする社会の中で、十分に学生自身の持つ能力を発揮できるものと信じている。

表 I-1 これまでのシステム環境整備

年度	学修システム・環境整備の内容
平成 14 (2002) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学外回線の増強 (128Kbps ⇒ 1.5Mbps) ・図書館 AV コーナー新設
平成 15 (2003) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・西館 1 階ヒューマンメディア実習室 西館 2 階マルチメディア実習室 新設 <ul style="list-style-type: none"> ・学生用パソコン 48 台, 教員用パソコン 1 台 設置 ・一般教室 11 教室へのマルチメディア教卓設置
平成 16 (2004) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・Web メールの導入 ・C-Lab1, 2 (学生用自修室) へのパソコン設置 (20 台)
平成 17 (2005) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・SA 教育制度施行 <ul style="list-style-type: none"> ・新 1 年次生 情報リテラシー授業への SA 配置開始
平成 18 (2006) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本館 3 階マルチメディア実習室 新設 <ul style="list-style-type: none"> ・学生用パソコン 72 台, 教員用パソコン 2 台 設置 ・教室分割対応も実施 ・一般教室 4 教室へのマルチメディア教卓設置
平成 19 (2007) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部設立 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部実験実習棟 6 教室へのマルチメディア教卓設置 ・ネットワークサーバ群および学内ネットワーク増強 <ul style="list-style-type: none"> ・基幹 : 1.5Mbps ⇒ 1Gbps、支線 : 10Mbps ⇒ 100Mbps ・西館 1 階・2 階パソコン実習室の拡張 <ul style="list-style-type: none"> ・学生用パソコン : 各 48 台 ⇒ 各 64 台 ・教員用パソコン : 各 1 台 ⇒ 各 2 台 ・教室分割対応も実施 ・足立記念ホールの映像配信システム導入 (A201、E301、M301) ・清滝スポーツ・ヒルズへ IP カメラ設置

年度	学修システム・環境整備の内容
平成 20 (2008)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・MY TGU.net ポータルサイトの開設 ・看護学部 出席確認システム稼働開始 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部実験実習棟 教室への出席読取装置設置 ・学生証の IC カード化
平成 21 (2009)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部実験実習棟 2 教室へのマルチメディア教卓追加 (N501, N502) ・学外ホームページのリニューアル
平成 22 (2010)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本学全域への無線 LAN 整備 ・MY TGU.net リアルタイム授業支援システムリリース ・全教室への出席読取装置設置
平成 23 (2011)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生へモバイル演習端末：iPod touch を配付 ・パソコン実習室設置パソコンのリプレイス <ul style="list-style-type: none"> ・最新 OS [Windows 7]、Office [Office2010] 対応 ・IC カード学生証によるログイン認証 ・IC カード学生証を利用した入退館システムリリース <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部実験実習棟ロッカールーム ・カンファレンスルーム ・女子寮 ・情報リテラシー授業への TYPE QUICK 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・教材費の半額を大学が負担
平成 24 (2012)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・サーティファイ団体受験校認定を受ける <ul style="list-style-type: none"> ・Word・Excel 技能認定試験 学内で実施
平成 25 (2013)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のアーカイブ化に対応する授業収録装置の導入 ・マルチメディア教卓のデジタル対応に着手 <ul style="list-style-type: none"> ・N503, N504, 実験室(N402), 音楽演習室(E202)に教卓を新設 ・W103, W203 の教卓のリプレイス (デジタル対応) ・上記 6 教室で、授業収録装置への接続が可能な設備を追加 <p>※上記新設を以って、全講義室へのマルチメディア教卓設置を完了</p>

本特記事項では、本学の学修システム、特にコンピュータ・システムにかかわる内容について、現状と今後の課題について記述する。

(2) 基幹システム

表 I-1 のとおり、本学では、学外回線の増強・ネットワークサーバ群、各種 ICT 環境の導入・リプレイスを行ってきた。

現在、学内には基幹 1Gbps、支線 100Mbps の高速ネットワークシステムを整備。学内各所に設置された情報コンセント（有線）だけでなく、平成 22 (2010) 年に学内全域に整備された無線 LAN から学内ネットワークシステムにアクセスできる。学外とも 100Mbps の光回線で接続し、高速かつ安定した外部ネットワーク（SINET やインターネット）との通

信環境を実現している。

また、基幹システムを構成するネットワーク機器や、パソコン実習室の機器については、情報ネットワーク保守業者と保守契約を結び、安定した情報ネットワークの運用に努めている。

ネットワークセキュリティの確保については、ファイアウォール・プロキシサーバの設置、電子メールサーバへのウイルス対策ゲートウェイ機能の付加、コンテンツフィルタ（i-Filter）の導入、無線 LAN 接続の際のパスワード制限を行っている。また主に学生が使用する教育用パソコンに対しては、IC カード学生証によるログイン認証、ドメインによるアクセス制限、各パソコンへのウイルス対策ソフトの導入を行い、情報機器の安全性を確保している。

本学では、全学的なツールとして、メールおよびポータルシステムを導入している。いずれも、すべての学生・教職員に ID を発行し、個人専用の情報を参照できる。またメールについては、学外からの利用も可能である。

ただ、メールシステムについては、メーカーサポートが終了することを受け、平成 26 年 3 月に Microsoft 社製の Office365 への切り替えを行う。クラウド上のメールサーバを利用する事で、コスト削減を図るとともに、より強固な基盤整備を行いたい。またこれにより学外との通信の増加も予想されるため、平成 25 年度末に、学外との通信回線を 100Mbps から 1Gbps に増強する予定である。

校内情報ネットワークの利用方法については、『キャンパスネットワーク TGU.net 利用ガイド』として冊子にまとめ、入学時に全学生に配布する他、情報センターのウェブサイトにも掲載し、学生が容易に情報ネットワークを利用できるよう配慮している。

（3）パソコン実習室・図書館・一般教室における学修環境

校内には、3つのパソコン実習室と図書館、29の一般教室（講義室・LL 教室・AV 教室・ICT 講義室）を有している。各々の以下の環境を整備している。

ア. パソコン実習室

パソコン実習室等、学生が使用できるパソコンは、表 I-2 の場所に設置している。これらのパソコンは、平成 23（2011）年度にリプレースを完了し、OS・Microsoft(R)Office を最新の Windows7、Office2010 とした。また IC カード学生証によるログイン認証も採用し、セキュリティもさらに向上している。

各パソコン実習室はいずれも教室の中央を間仕切ること、分割できる仕組みになっている。履修者数に応じて実習室を分割し、後方実習室を開放することで、学生がパソコンを自由に使えるよう自修環境の確保に努めている。これらの使用可能実習室の情報は、学内掲示板および学内ホームページ・携帯サイトで公開している。

表 I-2 パソコン実習室等、学生用パソコンの設置場所

設置場所		パソコン	プリンタ	スキャナ
西館 1 階	ヒューマンメディア実習室	64 台	3 台	—
	ロビー	3 台	1 台	1 台
西館 2 階	マルチメディア実習室	64 台	3 台	—

本館 3 階	マルチメディア実習室	72 台	3 台	—
	教職・教育支援センター	2 台	—	—
足立記念館 2 階	図書館	21 台	—	—
	看護国試閲覧室	2 台	1 台	—
合 計		228 台	11 台	1 台

パソコン実習室のうち、西館 1 階ヒューマンメディア実習室は、グループ学修を行うための実習室として整備している。64 台の学生用パソコンを 8 台ずつグループ化し、各グループ横に設置した 42 インチのプラズマディスプレイに、教員用パソコンまたは学生用パソコン（グループ化された 8 台のうち 1 台）のいずれかの画面を映し出すことができる。学生用パソコンは昇降スイッチを下げることにより机の中に収納することもでき、パソコンを使用しないグループ学修にも柔軟に対応している。

全パソコン実習室には、授業支援システム（Advantage Class）を導入している。このシステムにより、以下の操作が可能となっている。

- ・教員用パソコンから、全学生用パソコンの起動・終了を制御できる。
- ・資料・課題などのファイルを学生用パソコンに配信・回収できる。
- ・任意の学生用パソコンの画面を教員用パソコンに表示、教員用パソコンから学生用パソコンを操作できる。
- ・学生用パソコンの操作を禁止して、講義に集中させることができる。
- ・一般ユーザが行ったプログラムの削除や設定変更を保存しない。（復元機能）

この 3 つのパソコン実習室と後述の図書館に設置したパソコンについては、同一ドメインで管理しており、全パソコンから学生個人に付与した個人フォルダ(500MB)・教材参照用フォルダ(*)・課題提出用フォルダ(*)・グループ演習用フォルダ(*)にアクセスすることができる。また、各パソコン実習室・図書館のパソコンは、導入ソフトおよびバージョンを統一するなど、どのパソコンを使用しても同じ環境で学修できるよう配慮している。

(*) 教材参照用等のフォルダは、平成 23 (2011) 年のパソコン実習室リプレースの際に追加した。授業時間外に自修する際も自由に参照することが出来る。

イ. 図書館

図書館のマルチメディア・コーナーには、パソコン実習室と同じ設定の 21 台の自修用パソコンを設置している。この自修用パソコンを利用することによって、図書館内外の文献が検索できるだけでなく、図書の内容に関してさらに深く検索を行い、Microsoft® Office、SPSS などのソフトを使って分析するなど、文献の内容をその場で調査・研究することにより、学修効果を高めることができる。

また、AV 資料に関しても、図書館内の AV コーナーだけでなく、図書館の隣に 60 人まで収容できる AV 教室 (A201) を整備し、大人数での視聴にも対応できるよう考慮している。

ウ. 一般教室（講義室・LL 教室・AV 教室・ICT 講義室）

一般教室には、教員用パソコン・DVD/VHS デッキ・書画カメラ・マイク・情報コンセント・天吊プロジェクタ・自動昇降スクリーンを設置している。天吊プロジェクタ・自動昇降スクリーン以外はすべて鍵付きのマルチメディア教卓内に収納され、教員の許可がなけ

れば学生は操作できない。各教室のマルチメディア教卓の鍵はすべて同一の鍵となっており、専任教員には本学着任時に研究室の鍵と共に配付している。

一般教室のマルチメディア教卓については、平成 25 年度に行った 4 教室への新設を以って、全一般教室へのマルチメディア教卓設置が完了した。今後は、設置から 13 年を経過している教卓等、プロジェクタの光量が不足している教室から順にデジタル対応を含めたリプレイスを行っていきたい。

また、AV 教室 (A201)、階段教室 (E301)、多目的教室 (M301)、ICT 講義室 (M202) の 4 教室については、足立記念ホール (足立記念館 3 階・608 人収容) の映像・音声を受信することができるシステムを導入しており、入学宣誓式や学位記授与式の映像はもちろんのこと、講演会なども足立記念ホール以外から聴講することが可能である。

エ. 清滝スポーツ・ヒルズ

清滝スポーツ・ヒルズは、四條畷市にある大阪府民の森、緑の文化園内にあるスポーツ施設である。天然芝グラウンドや野球場などを持つこの施設には、Web サーバを内蔵した電動旋回付 IP カメラを設置している。IP カメラは、インターネット経由でカメラの向きの変更や、ズームイン/アウト、明るさ・コントラストなどの映像の調整がおこなえるので、授業や部活動の際、施設に移動する前にグラウンドの状態を確認するなど活用している。

(4) MY TGU.net ポータルシステム

MY TGU.net は平成 20 (2008) 年にリリースしたポータルサイトである。

このポータルサイトで、学生は履修登録・成績照会・出席状況確認・求人票検索が可能となっている。ポータルシステム導入前は、紙に記入して行っていた履修登録が、パソコンの画面上で、自分の時間割を組みながら登録することができる。重複している履修科目のチェックが瞬時に行えるだけでなく、取得できる単位数や、これまでの成績・卒業単位の不足数も画面上で照会できるので、常に必要単位数を確認しながら効率的に自分の時間割を組み立てていくことができる。卒業までの単位取得のスケジュール、一週間のスケジュールを視覚的に確認しながら履修登録することで、学生は自分の学生生活を主体的に考え、組み立てている。

出席状況確認では、学生の出席情報が、各学生・授業担当教員・職員のポータル上で確認・共有できる。授業の際に IC カード学生証を、出席読取装置にかざすことにより、自動的に出席が取れる仕組みとなっている。この情報はリアルタイムにポータルに反映され、瞬時に情報が共有できる。

また MY TGU.net では、対象となる学生に休講情報や補講情報、その他お知らせ、学生呼出などの掲示が行える。これらの掲示内容は、事前に携帯電話のメールアドレスを MY TGU.net に登録しておけば、学生自身の携帯電話にリアルタイムに情報を転送することができる。学生にとっては、情報をリアルタイムに受け取ることで、これからの自分の行動を主体的に決めることができ、時間の有効活用に大きなメリットがある。教職員にとっては、学生への連絡など事務の効率化を図ることができ、学生・教職員双方にメリットのあるシステムである。さらに学生個人と大学が「つながっている」ことは、学生と大学の心理的・物理的な距離を縮め、より積極的な関係の構築を促し、退学者削減につながることを期待している。

本ポータルシステムも運用後5年を経過し、安定した成果を上げている。平成（2010）年度は、「課題提出」や「アンケートの回答・回収・分析」「Q&A」「フォーラム」などが行える授業ごとの専用サイトを公開、平成（2011）年度は同年に全学生に配付した携帯モバイル端末 iPod の利用を前提に、「授業評価（授業アンケート）」もポータル上での運用を開始した。授業担当教員と学生とのさまざまな情報交換はもちろん、リアルタイムな情報共有・業務効率の向上に役立てていきたい。

表 I - 3 MY TGU.net への携帯メール登録数の推移 (%)

携帯メール登録数 (%)	4月	6月	8月	10月	12月	2月
2009年度	64.6%	89.7%	93.6%	94.3%	95.5%	95.5%
2010年度	73.0%	88.0%	87.9%	88.0%	87.8%	88.1%
2011年度	95.7%	98.8%	99.1%	99.2%	99.4%	99.2%
2012年度	82.3%	99.0%	99.2%	99.1%	99.4%	99.3%
2013年度	87.8%	99.0%	99.0%	99.0%	99.1%	99.1%

（5）携帯モバイル端末：iPod touch の全学生配付

iPod touch（以降「iPod」）は平成22（2010）年度、約1年のテスト運用期間を経て、平成23（2011）年に1～4年次生全学生への配付を開始した。



学生に配付するすべての iPod の裏面には、大学名および各学生の学籍番号・氏名を刻印している。

また、iPod 配付の際には、すぐに iPod を活用できるよう、使用方法の説明はもちろん、初期設定・学内無線 LAN への接続を行う約90分の説明会を実施している。そのため、iPod 配付初年度である平成23（2011）年は1,155人の学生に対し、計31回・6週間、平成24（2012）、25（2013）年度は、計6回・1週間の期間を要した。しかし、説明会終了後「すぐに使える」「つながっている」iPod が手元にあることは、学生にとって必要不可欠だったと考えている。

iPod の配付により、学生は学内各所から学内ネットワーク・インターネットへのアクセスが可能となった。これまでパソコン実習室に行かなければ調べられなかった様々な情報（授業で出てきた単語、自分の出席状況など）を、時間・場所を問わずに調べることができる。また iPod に用意されている様々なアプリを活用したり、平成22（2010）年にリリースしたリアルタイム授業支援システムと連動したりすることで、iPod は学修に大きく寄与できるツールとなる。平成23（2011）年は、それまで紙（OCR）で行っていた授業アンケート（授業評価）を iPod で行った。また一部の授業では、MY TGU.net の授業専用サイト（「課題提出」「アンケートの回答・回収」「授業評価」「Q&A」「フォーラム」などを提供）と連動して、授業担当教員と学生との情報交換が行われている。

なお、平成26年度については、画面の参照性・携帯性を考慮し、iPad mini を配付する予定である。

(6) 学生への学修支援（入学時の操作教育、利用ガイドの発行、SA 教育制度）

これらの学修システム・環境について、本学では、入学時に行う「新入生オリエンテーション」での操作教育および『キャンパスネットワーク利用ガイド』の配布を行って周知している。また、入学時の情報リテラシーに関するスキルのばらつきを是正し、「学生の学修意欲を向上させること」、「学修のツマヅキを理由とする退学者を削減すること」を目標に、1年次に開講する情報リテラシー授業に学生アシスタント（Student Assistant：以降 SA）を配置している。

ア. 「新入生オリエンテーション」での操作教育

新入生に対しては、入学直後に行われる「新入生オリエンテーション」の中で、『ユーザ登録書』の授与・パソコンの起動・ネットワークへのログイン・メール送受信・MY TGU.net に関する説明などを行っている。学生1人1人にパソコンを1台ずつ操作させて行う操作教育であり、その後の履修登録や授業をスムーズに行うために、必要不可欠な内容となっている。

イ. 利用ガイドの発行と配布

入学時に学生に配布しているのが、『キャンパスネットワーク利用ガイド』である。約50ページで構成されるこの冊子には、「本学のネットワーク環境」・「情報ツールの使用方法」・「ネチケット」などの情報を掲載しており、「新入生オリエンテーション」で参照するマニュアルとしても使用している。『キャンパスネットワーク利用ガイド』は毎年改訂を加えており、情報センターのウェブサイトでその内容を閲覧できる。

ウ. 情報リテラシー授業への SA の配置（SA 教育制度）

本学では、一定の要件を満たす2～4年次の学生が、新1年次生の情報リテラシー授業に SA として参加し、パソコン操作に不慣れた1年次生のサポートに当たる「SA 教育制度」をおこなっている。この「SA 教育制度」は、パソコンの操作経験の少ない新入学生をフォローし、情報リテラシー授業のボトムアップを図ることを目的に、他の私立大学に先駆けて、平成17（2005）年に施行した制度であり、平成20（2008）年度には文部科学省の「教育・学習方法等改善支援補助金」に採択された制度である。

新1年次生にとって、年齢も考え方も近い先輩学生と接することは、SA 教育制度の当初の目的である「パソコンスキル向上」の助けとなることはもちろん、学生生活における人脈作り、また1年後、2年後の自分の姿を具体的にイメージすることにも役立っている。

また、SA として参加する2～4年次生の学生にとっても、「教える」立場に立つことで、SA 自身のスキル・意識向上に役立っており、新1年次生・SA ともに十分に効果が上がっている制度である。以下表 I-4 に SA 数および充足率の推移をまとめる。

表 I-4 SA 数および充足率の推移

	平成 17 (2005)	平成 18 (2006)	平成 19 (2007)	平成 20 (2008)	平成 21 (2009)	平成 22 (2010)	平成 23 (2011)	平成 24 (2012)	平成 25 (2013)
SA 数	5 人	11 人	21 人	24 人	23 人	21 人	17 人	14 人	17 人
経営学部	2 人	3 人	7 人	11 人	8 人	9 人	3 人	4 人	4 人
人間学部	3 人	8 人	14 人	12 人	14 人	10 人	14 人	10 人	13 人
看護学部	—	—	—	1 人	1 人	2 人	—	—	—

充足率	36.5%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	97.1%	96.9%	100%	100%
オープン SA (*1)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%
授業 SA (*2)	24.5%	76.9%	100.0%	100.0%	100.0%	95.8%	95.5%	100%	100%

(*1) オープン SA : 昼休み (12:10~13:00) に各パソコン実習室を巡回。機器整備や学生からの質問に対応。

(*2) 授業 SA : 新1年次生の情報リテラシー授業で操作サポートを実施。

この「SA 教育制度」は「情報リテラシー教育委員会」の発案により、平成 17 (2005) 年 4 月より施行・運営している制度である。

「情報リテラシー教育委員会」は、「情報教育の推進と取り組みを具体化するための学長の諮問組織」として設置、学長が任命する各学部 2~4 人の教員 (2012 年度は 9 人) で構成する委員会である。委員会では、『SA 向けマニュアル』『教員向け SA ガイドライン』の発行など「SA 教育制度」の運営を行うとともに、情報リテラシー授業の在り方などの検討も行っている。

エ. 学生個人のスキル定着・目標設定

小学校からパソコン教育がおこなわれるようになった現在、「大学に入学して初めてコンピュータに触れる」という学生は少なくなっている。しかし、系統立てた学習が行われていないことが多く、自己流でコンピュータを操作している学生が多いのが現状である。

本学では、すべてのパソコン操作の基本となるタイピングに関して、平成 23 (2011) 年に初年次の情報リテラシー授業で、タイピング練習ソフト「TYPE QUICK」を導入 (教材費の半額を大学が負担) した。「TYPE QUICK」独自の認定制度なども利用し、学生のモチベーションのアップも図っている。(平成 23 年度 48 人、平成 24 年度 77 人、平成 25 年度 164 人認定)

また平成 24 (2012) 年からは、サーティファイ主催 Word・Excel 技能認定試験の団体試験校に登録し、春学期・秋学期終了後に学内で対策講座および試験を行った。客観的に判断できる資格取得の必要性が叫ばれる中、「資格にかける学生の金銭的な負担をできるだけ軽減すること」「大学の授業と資格をリンクする仕組みを構築し、授業の価値を高め、授業に参加する学生のモチベーションアップにつなげること」を目的としている。平成 24 年度は Word3 級 5 人、Excel3 級 8 人、平成 25 年度は Word3 級 2 人が受験し、それぞれの合格者は 3 名 (合格率 60%)、7 名 (合格率 87.5%)、2 名 (合格率 100.0%) であった。受験者数はまだまだ少ないが、継続して実施し、学修の一助としていきたいと考えている。

(7) 今後の課題と計画

これまで述べてきたように、本学ではハード・ソフトの両面から、さまざまな学修環境の整備を行ってきた。今後さらに進むネット社会に適応できる学生を育成するためにも、スピードを速める世の中の ICT 環境に対応するべく、将来にわたって学内のハード・ソフトの充実を図っていく予定である。

平成 22 (2010) 年 4 月に敷設した無線 LAN・出席確認システム、平成 23 (2011) 年度に

全学生に配付した「モバイル演習用端末:iPod」、そして「MY TGU.net (ポータルシステム)」。
これらを活用し、無線 LAN 環境の下での授業支援や、学生と教職員・大学とのコミュニケーションをさらに充実していきたい。

特に、今後授業時間外学修環境の整備については、授業のアーカイブ化のための授業収録・コンテンツ配信準備が必要であると考えている。本学では、授業時間外学修環境の整備のため、平成 25 年度末に、足立記念館 1 階、本館 1 階ロビー、看護学実験実習棟など学内各所に学生用パソコンを新設するとともに、iPod の画面を大きく映し出す事のできるモニターも設置する(*)。また、携帯モバイル端末自体も平成 26 年度新入生には iPod より画面の大きい iPad mini を配付する。アーカイブ化した授業コンテンツを参照する環境は整いつつある。平成 26 年度は、授業コンテンツの作成を進めるとともに、授業を収録したデータの配信方法について、検討する。

(*)Active Learning Commons：平成 24 年度文科省 ICT 活用推進事業として採択された補助金事業。実際の運用は平成 26 年度からとなる。

これからの情報化活用社会を担う即戦力としての人材を送り出す教育機関として、世の中の実情以上の教育環境を学生に提供することは、「実学教育」を教育方針とする本学にとって必須課題である。